

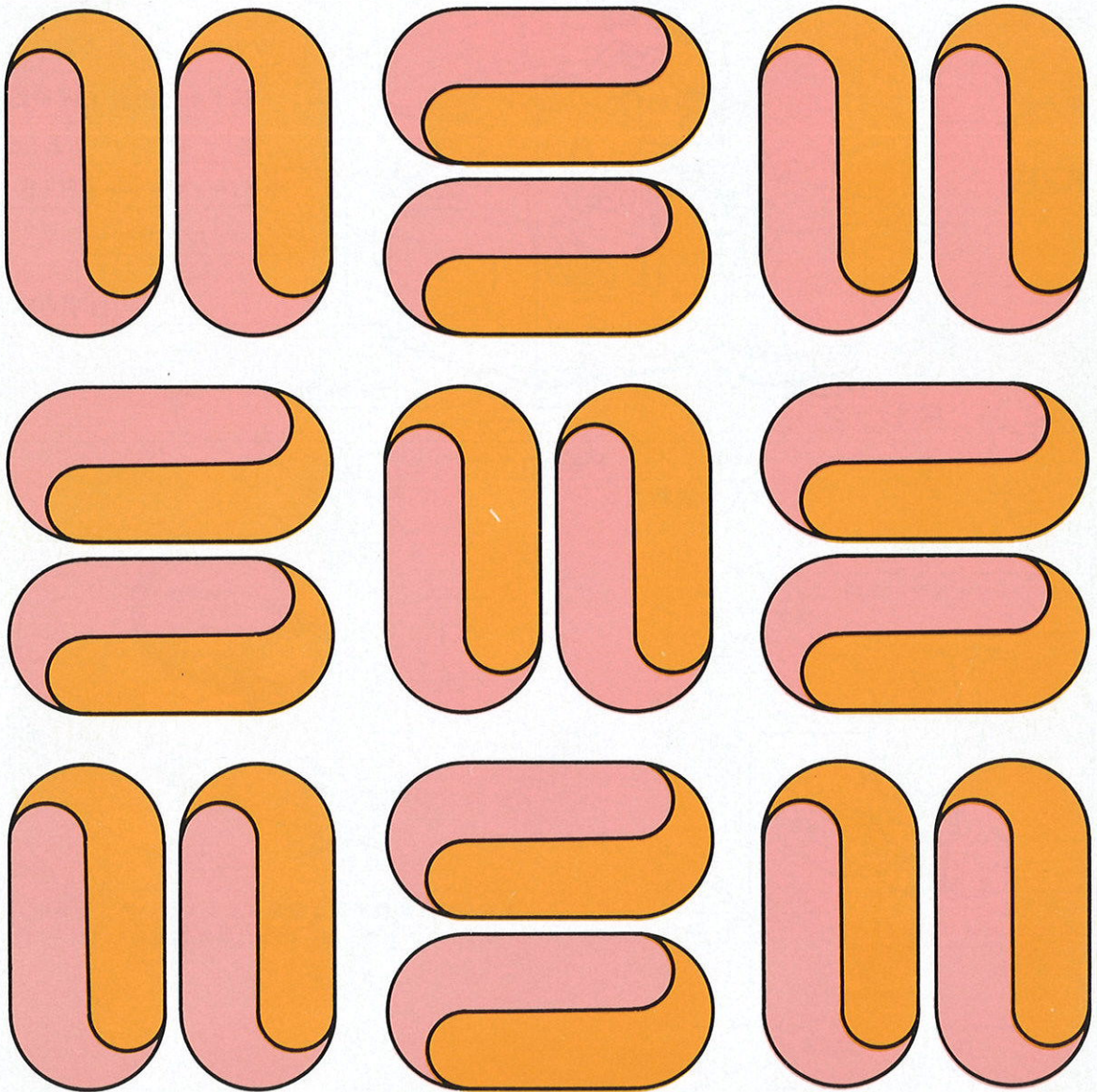
ベビーロック

Wチェーン・ステッチ&縁かがり

EA-605型

ご使用のてびき

株式会社 **ジューキ**



取手形糸案内

天秤

天秤糸かけ

上メス

押え金

針板

糸立棒

下糸案内ばね

Wチェーン用針糸調子器

縁かがり用針糸調子器

縁かがり用ルーパー糸調子器

Wチェーン用ルーパー糸調子器

ベルトカバー

はずみ車

縫代ゲージ

カバー台

メスカバー

下側面カバー

底板ゴム

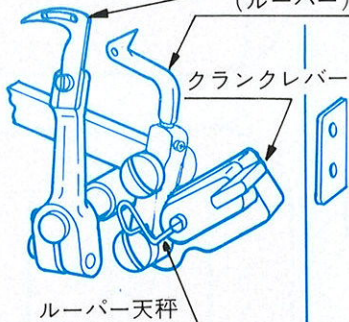


Wチェーン・ステッチ用
(ルーパー)

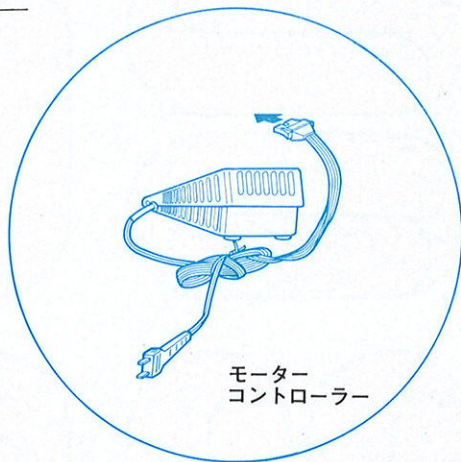
縁かがり用
(ルーパー)

クランクレバー

ルーパー天秤



ルーパー部詳細図



モーター
コントローラー

※安全のため使用後は電源プラグを抜いてください。
また、コントローラーの上に物を載せないでください。

はじめに

このたびは、ベビーロックEA-605型をお買上げいただきまして、ありがとうございます。EA-605型を最も有効に末永くお使いいただくために、この手引きをお役立てください。

目次

1. 縁かがりをするとき	1
1-1. 糸のかけ方	1
1-2. 縫う準備と点検	3
1-3. 縫いについて	3
2. Wチェーン・ステッチ（地縫い）で縫うとき	4
2-1. 縁かがりからWチェーン・ステッチへの切換え	4
2-2. 糸のかけ方	5
2-3. 縫いについて	6
3. 安全縫いをするとき	7
3-1. Wチェーン・ステッチから安全縫いへの切換え	7
3-2. 糸のかけ方	8
3-3. 縫いについて	8
4. 糸調子のとり方	9
4-1. 縁かがり縫い目調子のとり方	9
4-2. Wチェーン・ステッチ縫い目調子のとり方	10
5. 押え圧力について	11
6. 送り目の調節について	11
7. 縫い速度について	12
8. 針のとりつけ方	12
9. メスの交換について	13
10. 注油について	14
11. 点検と調整について	14
12. 応用編	15
12-1. ニット用押え金のとりつけ方 (Wチェーン・ステッチ)	15
12-2. ミシンライトをつけるとき	16
12-3. Wチェーン・ステッチの縫い目をほどくとき	16
13. 梱包明細	17
14. カーボンブラシの交換について	18
15. EA-605型仕様表	19
16. 布地と糸の関連表	20

1 縁かがりをするとき

1-1 糸のかけ方

① 糸巻きのセット

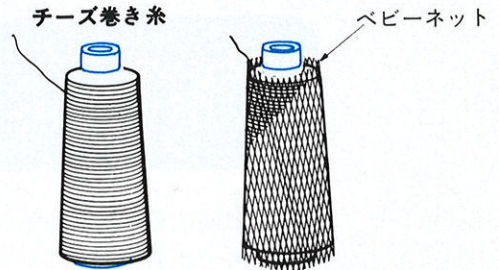
糸巻きを糸巻き受けにしっかりと立ててください。

このミシンには普通チーズ巻き（又コーン巻き）の糸を使いますが、ボビン巻き糸もお使いになれます。この場合「第2図」のように付属の木駒受けをボビン巻きの穴に差し込んで糸巻き受けの上に乗るようにセットしてください。

② ルーパー糸のかけ方

先ず「第5図」のように、メスカバー台を開きます。次に「第3図」「第4図」のように、順次糸を通してください。糸通しが終わったらメスカバー台は閉めてください。

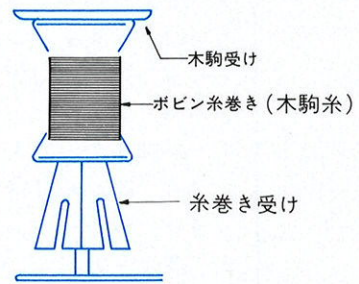
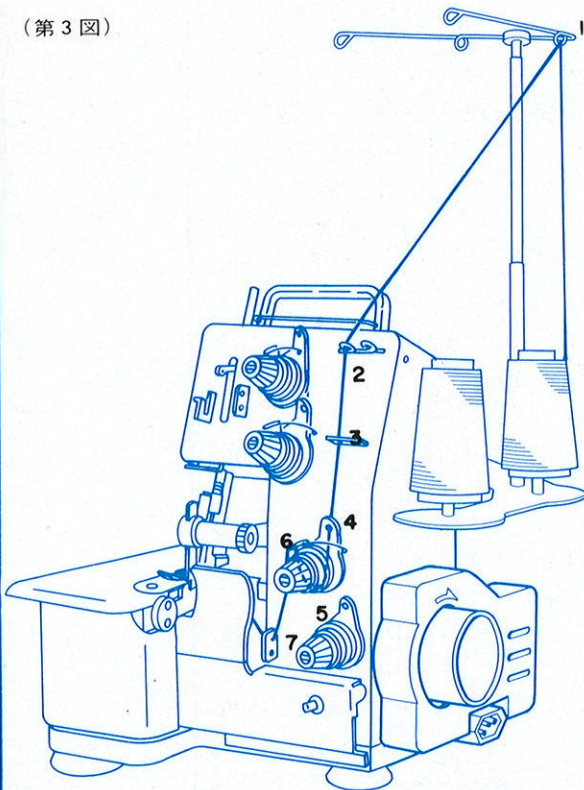
下糸は約10cmひきだしておきます。



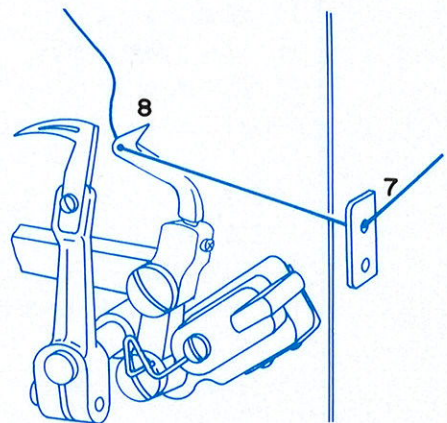
化繊糸などのほつれ易い糸のときはベビーネットをご使用ください。

(第1図)

(第3図)

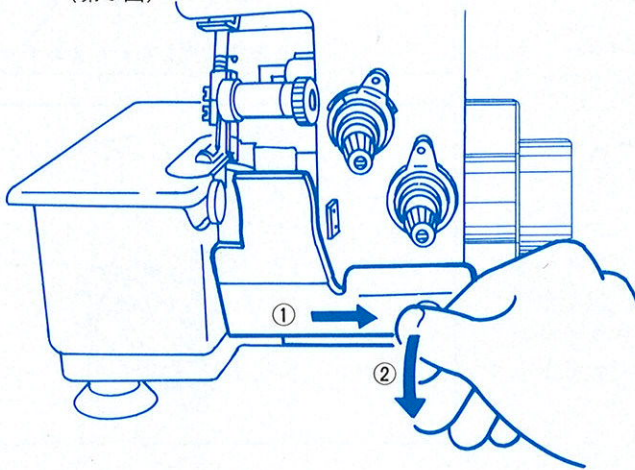


(第2図)



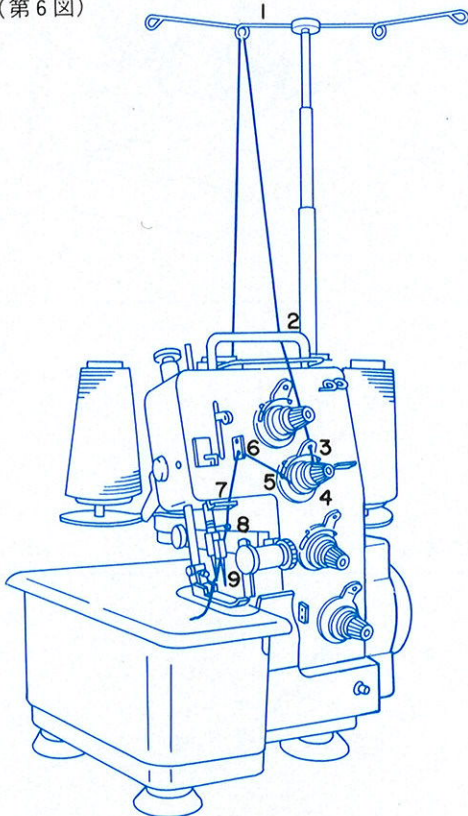
ルーパー部の糸のかけ方 (第4図)

(第5図)



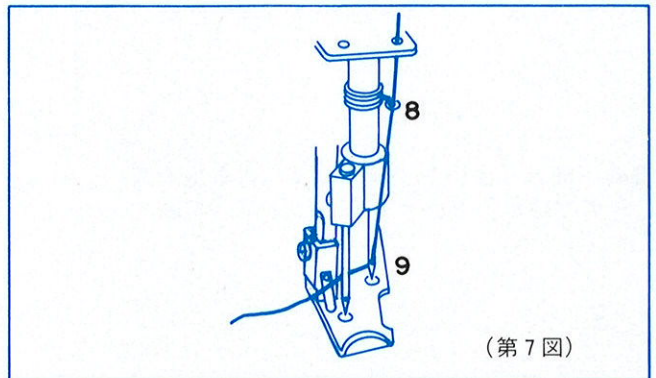
ツマミを右に引いてから手前に倒してください

(第6図)



③ 針糸のかけ方

「第3図」「第4図」のように順次通してください。針穴には、手前から向こう側に通して、糸を約10cmひきだしておきます。

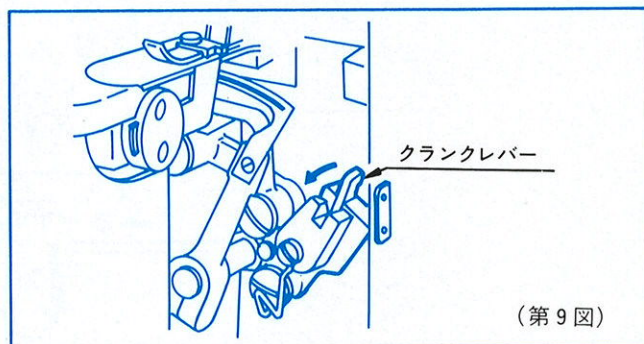
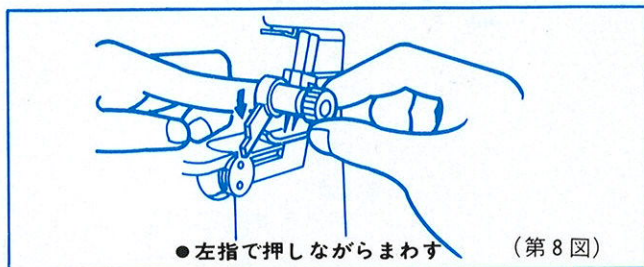


(第7図)

1-2 縫う準備と点検

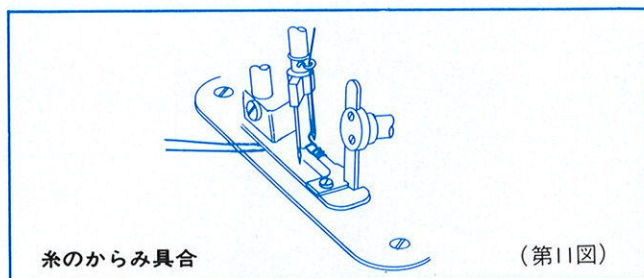
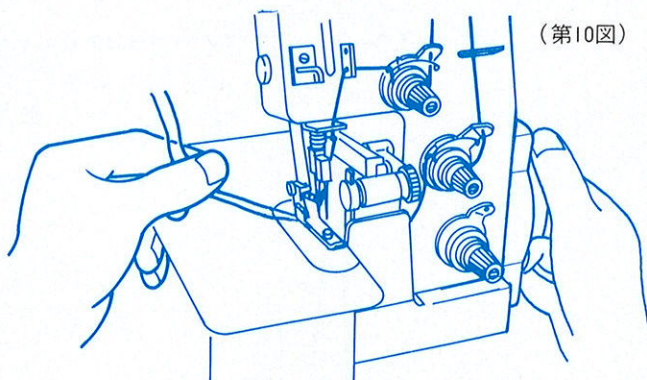
このミシンは、出荷のとき、各部のセット状態は**安全縫い用**になっており、このままで**縁かがり**もできる状態ですが、念のため次のような順序で点検してください。

- ①上メスの刃先は、下に向いていますか。(布地を切断できる状態であればよいのです)
- ②クランクレバーは溝にはめこんでありますか。
- ③もしクランクレバーが溝からはずれていましたら、はずみ車を手で回し、針が最も下がったところでクランクレバーを手前に倒してセットしてください。これで縁かがり用ルーバーが動きます。

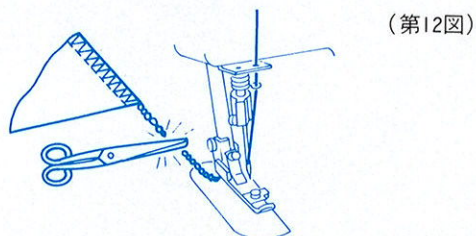


1-3 縫いについて

- ①糸かけの終わった針糸とルーバー糸の両端を「第10図」のように左手指で少し張りぎみにつまみ右手でははずみ車を時計方向に回して両糸のからみぐあいを確かめ、それから布地をセットして縫いをはじめてください。
- ②針糸とルーバー糸のバランスが悪いと布地にしわができたり、縫い目が不揃いになることがあります。
「糸調子のとり方」の項を参照してください

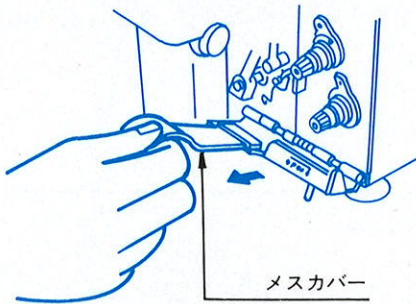


- ③縫い終わりは、「第12図」のように布地の端から空縫いを2cm～5cm長くとり、切断してください。

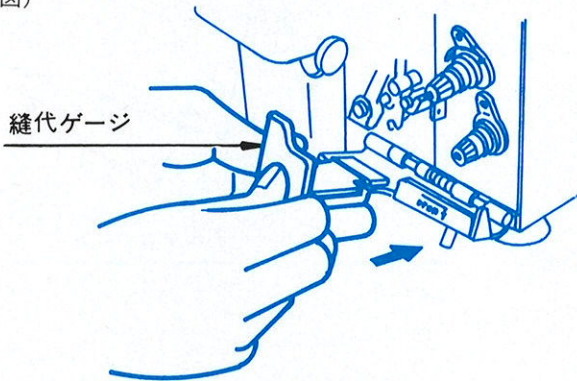


2 Wチェーン・ステッチ(地縫い)で縫うとき

(第13図)



(第14図)



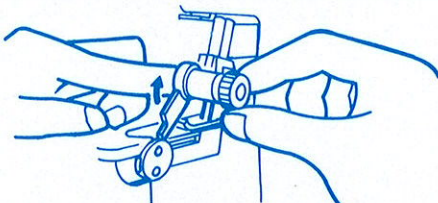
2-1 縁かがりからWチェーン・ステッチへの切換え

縁かがり用になっている各部の状態を、次の手順に従ってWチェーン・ステッチ用に切換えてください。

〔切換え手順〕

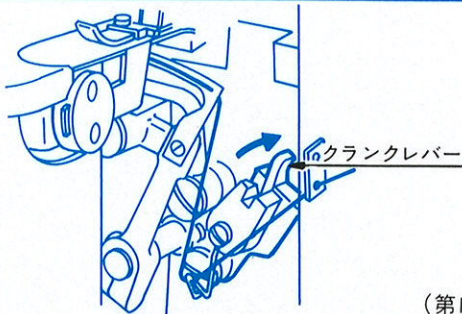
- ① メスカバー台を開き、メスカバーを抜きとり、縫代ゲージをセットしてください。
(赤丸印を同じ方向にセットします)

- ② 上メスを上に回してください。



(第15図)

- ③ はずみ車を手で回し、針が最も下がったところでクランクレバーを溝からはずしてください。これで縁かがり用ルーパーは動きません。

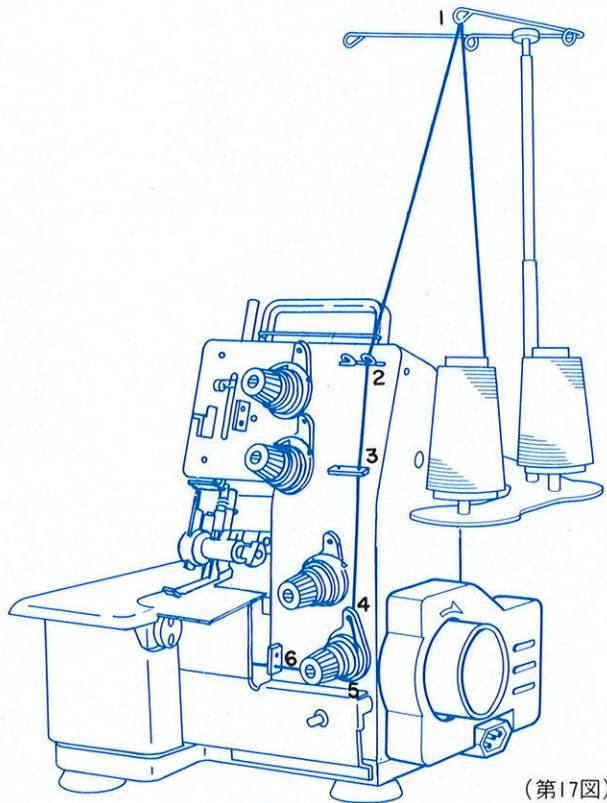


(第16図)

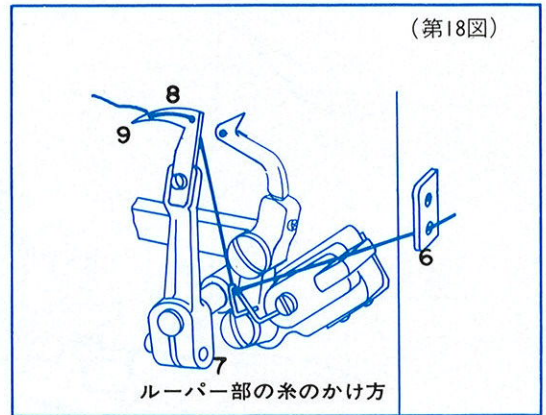
2-2 糸のかけ方

①ルーバー糸のかけ方

メスカバー台を開いて、「第17図」「第18図」のように順次通してください。また、糸は約10cmひきだしておきます。糸通しが終わったらメスカバー台は閉めてください。この場合ひきだした糸は、そのままかまいません。(針板上面に、さらにひきだす必要はありません)



(第17図)

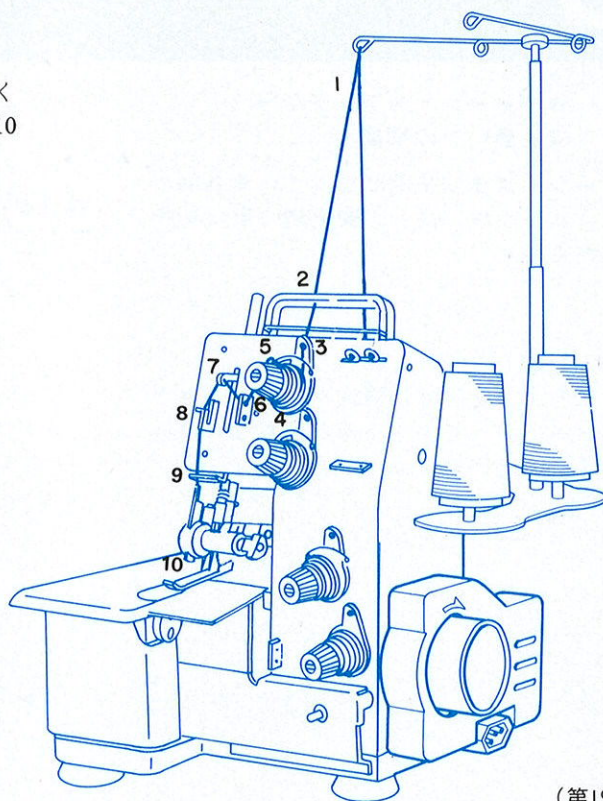
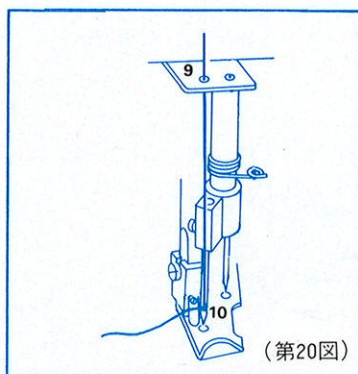


(第18図)

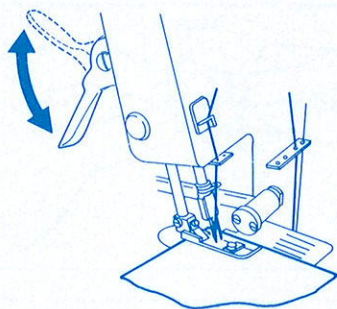
ルーバー部の糸のかけ方

② 針糸のかけ方

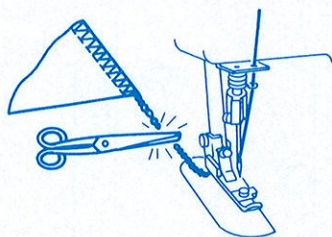
「第19図」「第20図」のように、順次かけてください。針穴は手前から通して、糸を約10 cmひきだしておきます。



(第21図)



(第22図)



2-3 縫いについて

- ①「第21図」のように布地をセットしてください。
縫いはじめの1針～2針は、とくにゆっくり送ってください。
- ②針糸とルーバー糸のバランスが悪いと布地にしわがよったり、また縫い目がそろわなかったりします「糸調子のとり方」の項を参照してください。
- ③縫い終わりは、「第22図」のように布地の端から空縫いを3 cm～5 cm長くとり、切断します。空縫いの始末は、布地端で結ぶか、または布地がニット物の場合はカギ針などで折り直して止めてください。
縫い目を強く仕上げる場合は、同じ個所を2回並べて縫ってください。

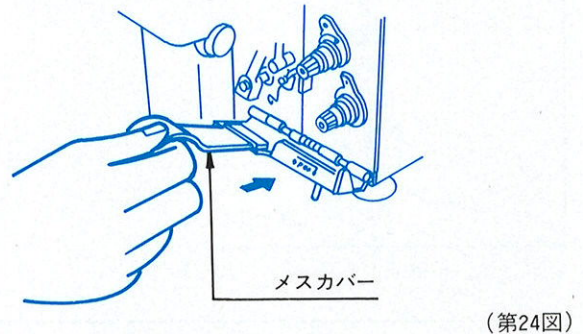
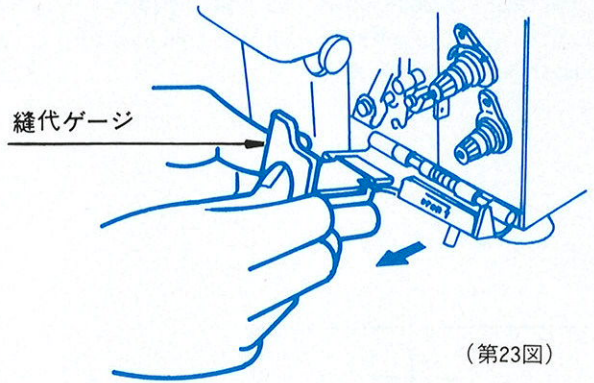
3 安全縫いをするとき

3-1. Wチェーン・ステッチから安全縫いへの切換え

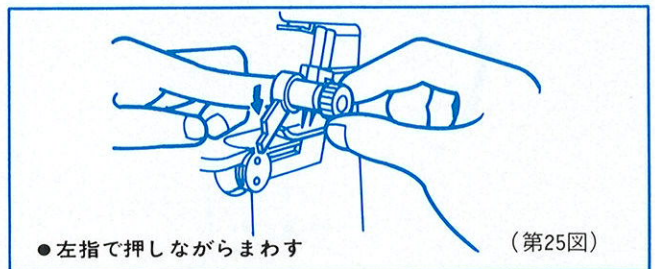
Wチェーン・ステッチ用になっている各部の状態を、次の手順に従って安全縫い用に切換えてください。

〔切換え手順〕

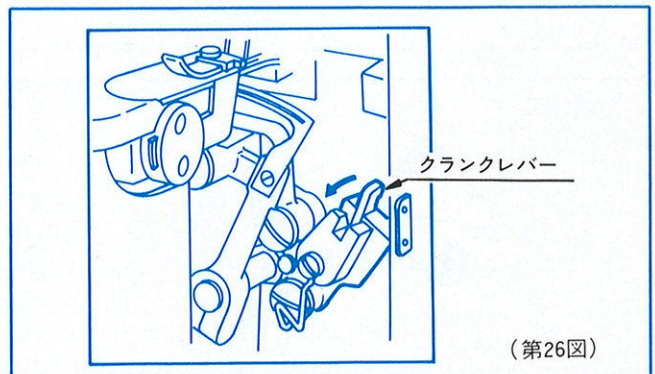
- ① メスカバー台を開き、縫代ゲージを抜き取り、メスカバーをセットしてください（赤丸印を同じ方向にセットします）。



- ② 上メスを手前に回わして、セットしてください。（布地を切断する状態になります）



- ③ はずみ車を手で回わし、針が最も下がったところでクランクレバーを手前に倒してセットしてくださいこれで縁かがり用ルーバーが動きます。



3-2 糸のかけ方

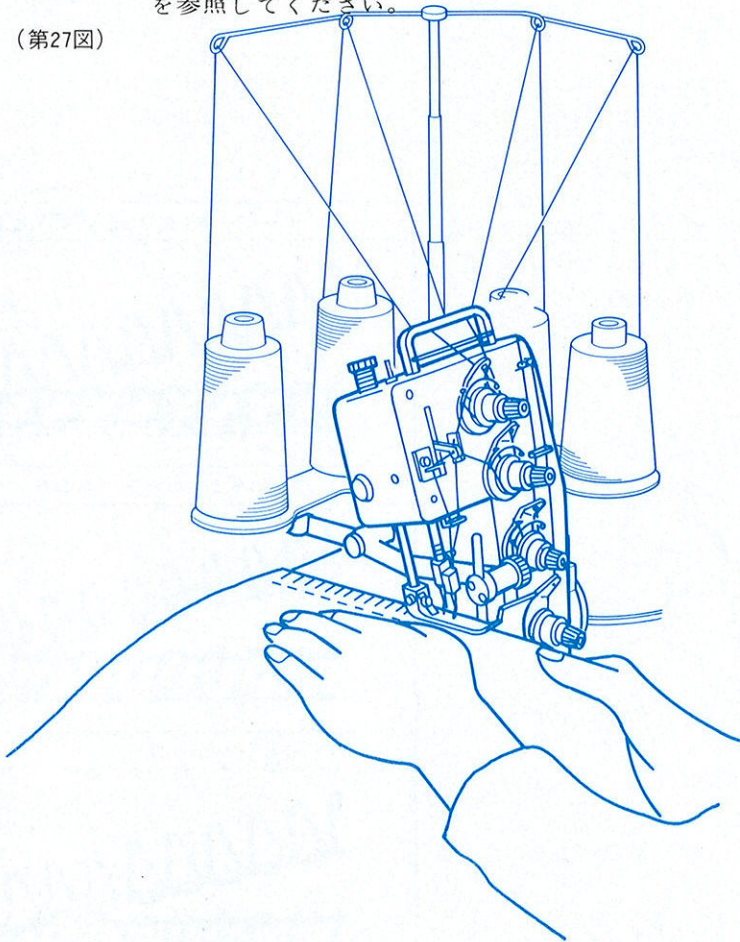
「第27図」の状態、4本の糸全部をかけて縁かがりとWチェーン・ステッチを同時に行ないます。

- ①糸通しについては「縁かがり」「Wチェーン・ステッチ」の糸のかけ方の項を参照してください。

3-3 縫いについて

- ①安全縫いは縁かがりとWチェーンステッチの縫い方と同様です。「縁かがり」「Wチェーン・ステッチ」の縫いについての項を参照してください。
- ②糸調子については「糸調子のとり方」の項を参照してください。

(第27図)

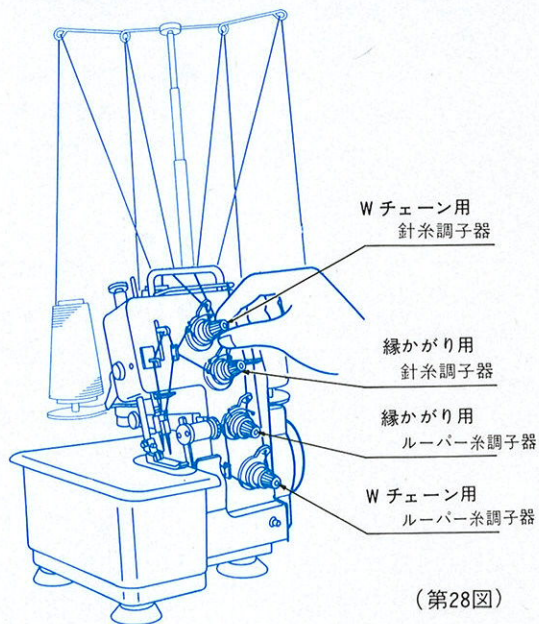


4 糸調子のとり方

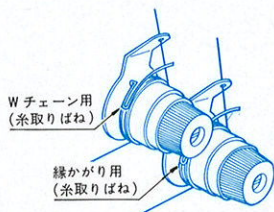
4-1 縁かがり縫い目調子のとり方

糸調子のとり方は、布地の種類や使用糸の太さ、種類によって違います。そのつど縫い目を見ながら上下の糸調子器で調節してください。

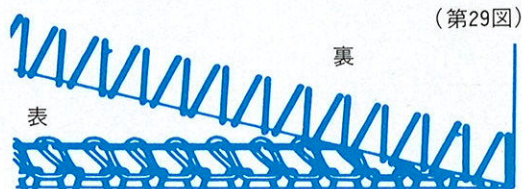
(時計方向に回すと、糸調子は強くなります)



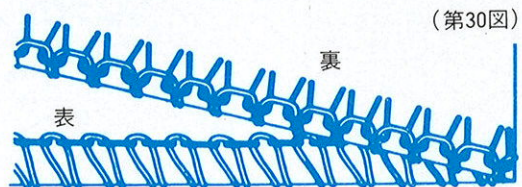
化繊糸及びトリコット布地などを使用する場合で、縁かがり目が美しくできないときは、糸取りばねから糸をはずして縫ってみてください。



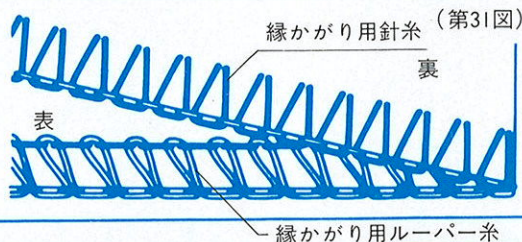
(A)ルーバー糸(表糸)が強すぎる場合



(B)針糸(裏糸)が強すぎる場合



(C)美しいかがり目

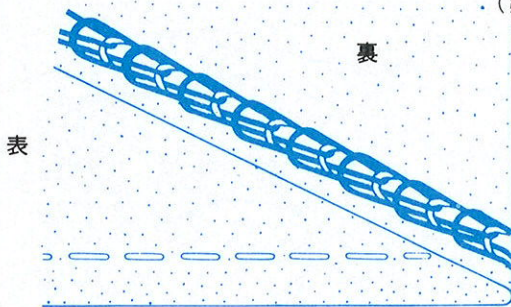


- ①ルーバー糸(表糸)が強すぎる場合「第29図」は、縁かがり用ルーバー糸調子器をゆるめてください。
- ②針糸(裏糸)が強すぎる場合「第30図」は、縁かがり用針糸調子器をゆるめてください。「第31図」の状態になれば完全です。

4-2 Wチェーン・ステッチ縫目調子のと り方

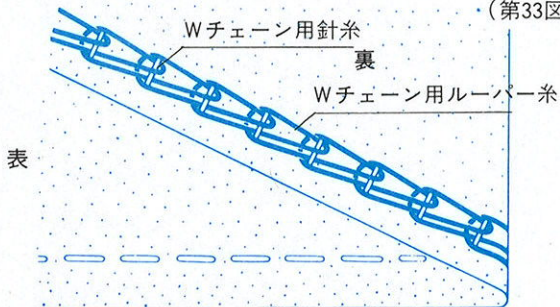
(A) 針糸がゆるい場合

(第32図)

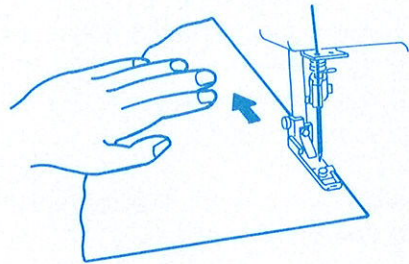


(B) 美しい縫い目

(第33図)

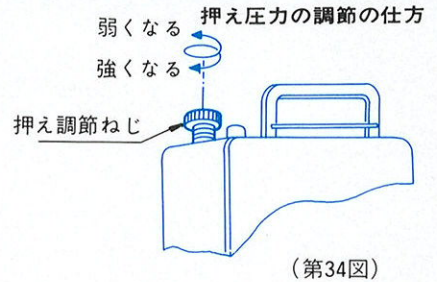


とくに薄物布地の場合、また編物など極厚物の場合は縫い終わり部分を左手で少しひきぎみにして縫うときれいに仕上がります



5 押え圧力について

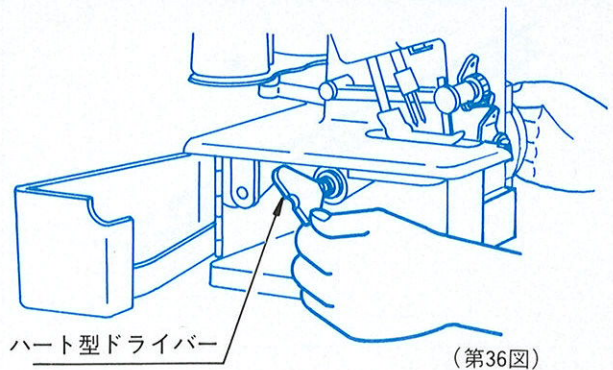
このミシンは、すでに押え圧力を標準（中厚物用）に調節してあります。極薄物、極厚物の場合のみ調節してください。薄い生地には押え圧力を弱く厚い生地には押え圧力を強くします。



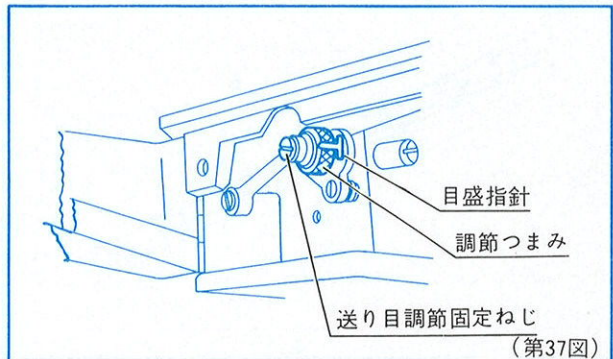
(第35図)

6 送り目の調節について

- ① 右手ではずみ車を押え、左手でハート形の専用ドライバーをにぎり、送り調節固定ねじをゆるめてください。ハート形ドライバーで押えたら、はずみ車を反時計方向に回すと固定ねじはゆるみます。



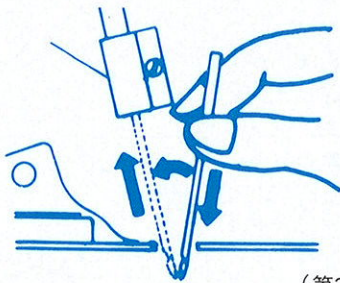
- ② 次に、調節つまみの目盛りを指針に合わせてください。つまみ目盛りの数字が大きくなるほど、縫い目は大きくなります。
- ③ 調節が終わったら、送り目調節固定ねじは固く締めつけてください。



7 縫い速度について

このミシンで使用しているモーターは低速でも安定した速度制御ができる特殊構造のものです。コントローラーの踏み加減で速度を決めてお使いください。

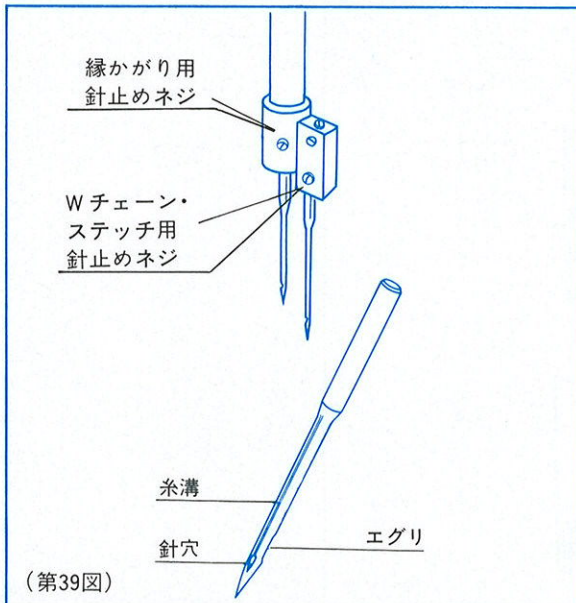
8 針のとりつけ方



(第38図)

このミシンはWチェーン・ステッチ用針も、縁かがり用針も共にBL×1(DB×1) #14又は#11を用品。

- ① 針をとりつけるには、最初にはずみ車を回し、針棒をいちばん上まであげます。
- ② 次に針止めねじをゆるめて、最初に針先を押え金の針穴に差しこみ、それから針棒の針穴に奥まで差しこんでください。



(第39図)

- ③ 針止めねじは固く締めつけてください。針のとりつけ向きは、「第39図」のように正面から見て糸溝が手前にするように合わせてください。

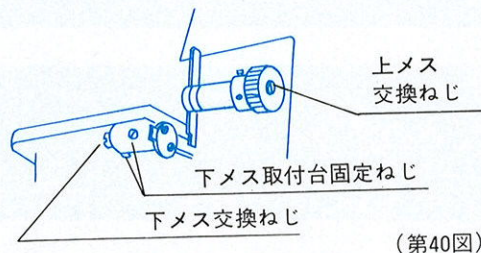
9

メスの交換について

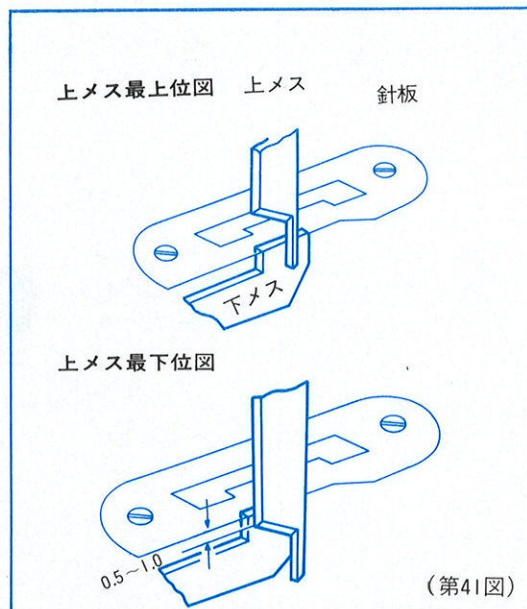
はじめに必ず電源プラグを抜いてから作業してください。

メスは消耗品ですので切れなくなったら交換してください。

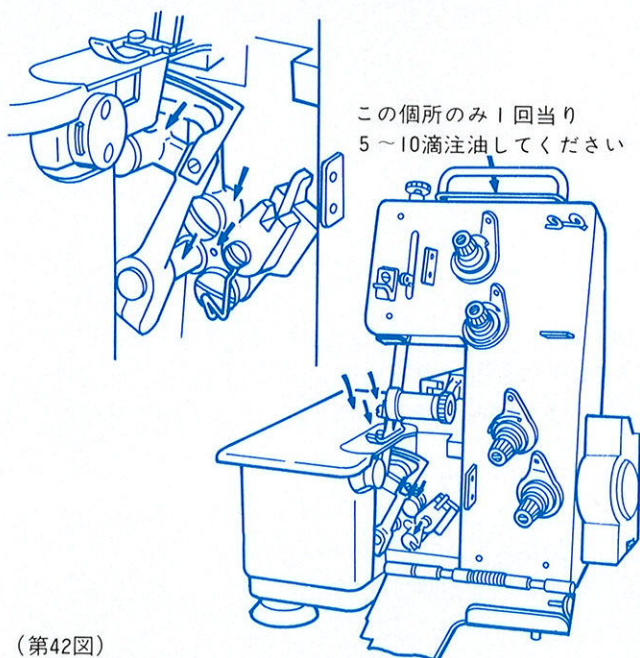
- ① 上メス、下メス共にメス交換ねじをゆるめて行ないます。



- ② 下メスのとりつけ位置は、「第40図」のように針板のメス溝に合わせて固定します。
- ③ 上メスの正常なとりつけ位置は、上メスが運動していちばん下がった位置のとき、上メス手前刃先が下メス刃先上面に対して0.5～1.0mmほど沈むように位置決めしてください。(第41図参照)



10 注油について



(第42図)

このミシンの大切な個所には、すべて特殊な材料（含油メタル）を用いておりますので、ほとんど注油の必要はありません。ただし、使用頻度の高い場合には、ミシン外観から見て赤印のついている個所に注油してください。1回の注油の量は1～2滴でいどにしてください。

11 点検と調整について

このベビーロックは、むずかしい専門的な調整をしないですむように設計されています。つぎのような5つの例は、基本的な調整ができていないときに起りやすい故障ですから、よく覚えておいてください。

A) ミシンが動かないとき

- コードをちゃんと差しこんでありますか。
- モーターの取付位置がズレていませんか。
- ベルトがゆるいものではありませんか。

B) 糸が切れるとき

- 糸かけは正しいですか。
- 糸調子が強すぎませんか。
- 針は曲っていませんか。
- 押えの強さは適当ですか。
- 糸の種類はどうですか。
- 針の取り付け方が、まちがっていませんか。

C) 針が折れるとき

- 針が、針板や押えにぶつかっていませんか。
- 針の取り付け方が、まちがっていませんか。

D) 目とびするとき

- 針が曲がっていたり、針先がすり減ったりしていませんか。
- 針を正しく取り付けましたか。
- 糸のかけ方が、まちがっていませんか。
- 押えが弱いものではありませんか。

E) 縫い目の調子が悪いとき

- 上糸、下糸の張力調整は、じゅうぶんですか。
- 糸のかけ方は正しいですか。

12 応用編

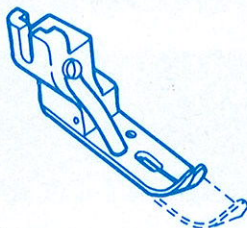
12-1 ニット用押え金のとりつけ方

(Wチェーン・ステッチの場合のみ使用する)

この押え金は、カーブの多い個所を縫うのにべんりです。

- ①最初に押え上げレバーを上げ、押え金止めねじをとりはずします。(第43図参照)
- ②次に押え金を交換し、針落ち孔が合っているかどうかを確認して止めねじを固く締めつけてください。

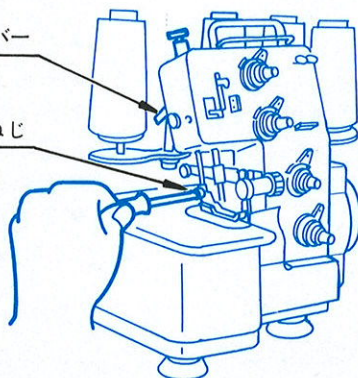
ニット用押え金



(第43図)

押え上げレバー

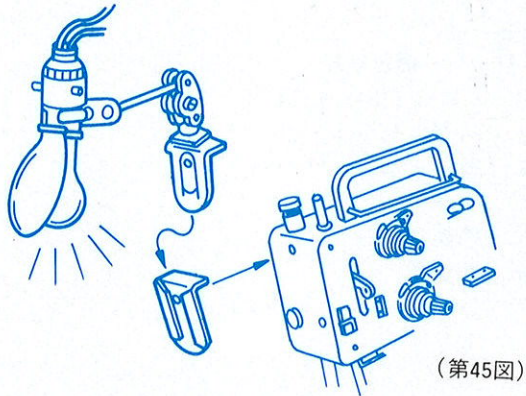
押え金止めねじ



(第44図)

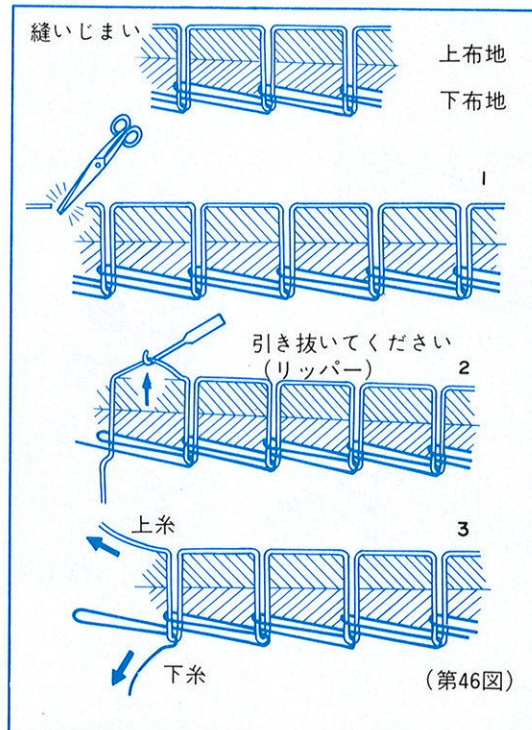
12-2 ミシンライトをつけるとき

ライトをお使いになる場合は、市販されているミシンライトを「第45図」のようにとりつけてください。



12-3 Wチエーン・ステッチ の縫い目をほどく場合

縫い目をほどくには、縫いじまいのほうから「第46図」のようにして縫い糸をとり去ってください。

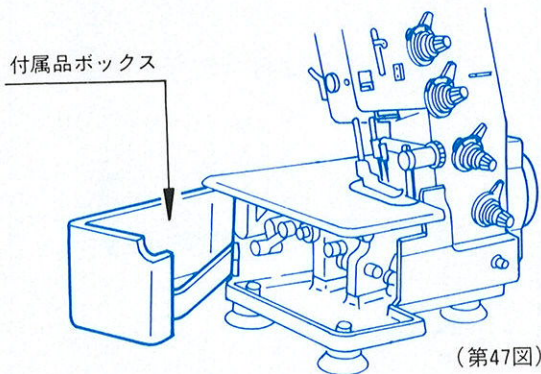


13 梱包明細

13-1 梱包明細

1. ミシン(モーター付)
2. ペダルセット一式
3. 頭部ビニールカバー
4. ご使用のてびき
5. 検査合格証
6. 保証書
7. アクセサリー・ボックス
 - ドライバー (一用) 1 コ
 - スパナ (モーターブラケット用) 1 コ
 - 針 BL×1 #14×3本 #11×2本 5 本セット
 - 上メス 1 コ
 - ピンセット 1 コ
 - 掃除用ブラシ 1 コ
 - 油差し (30cc入り) 1 コ
 - ハート型ドライバー (送り目用) 1 コ
 - 縫代ゲージ 1 コ
 - ニット用押え金 1 コ
 - ベビーネット 1 セット
 - 木駒受け 4 コ

「第47図」の下側面カバーのボックスにはお仕事の際に必要な付属品を入れてご使用ください。



14 カーボンブラシの交換について

14-1 モーターの カーボンブラシ交換について

このミシンに使用しておりますモーターにはカーボンブラシが2個（2カ所）取付けてあります。長期間お使い頂くと、摩耗しますから、図のようにカーボンブラシを交換してください。

A) 交換の時期

摩耗によってブラシ部分が〈カーボンブラシ図〉の様に短くなったら、交換して下さい。

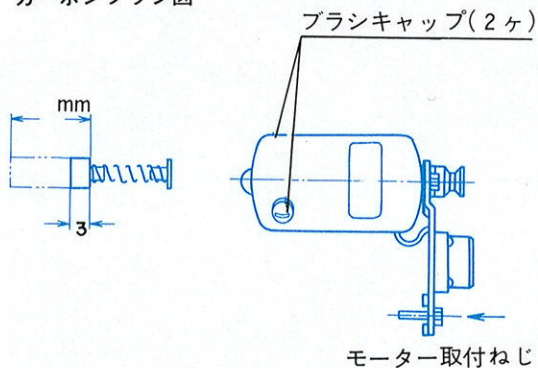
B) 交換の文法

最初にモーターを取り外します。次に〈モーター図〉のブラシキャップを各々取外し新しいブラシと交換してください。

〔注 意〕

摩耗したブラシを、そのまま使っていると、モーターから火花が出たり、又モーター故障の原因になりますから、ご注意ください。

カーボンブラシ図



※摩耗により図の様にブラシ部分が3mm程度になりましたら交換して下さい。

※カーボンブラシの購入先
ミシン店又は、電気器具店でお求め下さい

15

EA-605型仕様表

基本項目	仕様
かがり巾	4 m/m (縁かがり巾)
針 巾	3 m/m (針間隔)
縫い目(送り目)	1 ~ 5 m/m
針棒ストローク	27 m/m
メス上下量	7.5 m/m
押え上り量	4 m/m
送り歯高さ	0.7 m/m (標準)
使用針	BL×1(DB×1) #11, #14
使用糸本数	4本
給油方式	油芯装置付手差方式
ミシンの大きさ	タテ 250 m/m ヨコ 250 m/m 高サ 280 m/m
ミシンの重さ	8 kg (モーター付完成品)

16

布地と糸の関連表

	布 地 の 種 類	糸	針
木 綿 麻	〔薄地〕 ボイル、ローン、ブロード、ギンガム、亜麻など	綿 #100 スパン #90	B L #11
	〔厚地〕 オックスフォード、デニム、キルディング、ギャバジンなど	綿 #80 スパン #80~60	B L #11 #14
絹	デシン、クレープ、オーガンジー、サテンなど	絹 #100 テトロン #80	B L #11
毛	〔薄地〕 トロピカル、ポーラ、ポプリンなど	スパン #80 綿 #80、テトロン #80 絹 #50	B L #11
	〔普通地〕 サージ、ギャバジン、フラノなど	スパン #80 テトロン #80~60 絹 #50	B L #11 #14
	〔厚地〕 ペロア、キャメル、アストカンなど	スパン #60 綿 #60~50 テトロン #60~50 絹 #50	B L #14
化 織 合 織 混 紡	〔薄地〕 ジョーゼット、ボイル、サテンなど	スパン #90~80 テトロン #80~60	B L #11
	〔厚地〕 タフタ、ツイル、ベネシャンなど	スパン #80~60 テトロン #60	B L #11 #14
ニット	トリコット（化織、合織）	スパン #90~80 テトロン #80~60	B L #11
	ジャージ（化織、合織）	スパン #80~60 テトロン #60	B L #11 #14
	毛糸	スパン #80~60 テトロン #60~50 ウーリーナイロン ウーリーテトロン アングリア	B L #14

